

若者視点で未来語る

米沢有為会の130周年記念フォーラム



発行所
米沢新聞社
米沢市門東町3丁目3番7号
電話0238-22-4411
郵便振替口座 山形8-2719
©米沢新聞社 2020

公益社団法人米沢有為会(大滝則忠会長)主催の「地域未来を拓く若人フォーラムin置賜」あなたの力で置賜の豊かな未来を探ろう!」が11日、米沢市の市民文化会館などを会場に開かれた。高校生によるパネルディスカッションや探求型学習成果の発表会など若者の視点で地域の活性化を考えた。

フォーラムは、地域に対する若者の関心を高めようと、米沢有為会が130周年記念事業の一環として開催。市民文化会館でパネルディスカッションや学習成果発表を行ったほか、文化複合施設ナセBAで置賜の高校や中学校計16校が取り組んできた探求型学習成果のパネル展を実施している。

このうちパネルディスカッションでは、山形大学大学院有機材料システム研究科卓越研究教授の城戸淳二さんをコーディネーターに迎え、米沢中央高校2年の長澤亜実さんと県立南陽高校2年の影山南央さん、県立長井高校2年の二瓶倭花那さん、NPO地域生活支援協会理事長の鈴木大士さん、米沢市役所米

沢ブランド戦略課主任の佐藤功児さんの5人がパネリストを務めた。人口減少が進む置賜の現状について尋ねられると、二瓶さんは「進学や就職をきっかけに都会に人口流出している。自由度の高い現代社会で置賜で学んだり働いたりすることを選

りを持ち置賜の魅力を再発見することが必要だ」と語った。佐藤さんはブランド事業を紹介しながら「社



事や育児を分担するところが難しいのではないかと。女性の社会進出に対応できるサポート体制が敷かれていない状

況が問題。働く、働かないどちらを選んでも安心できる環境を作っていくことが課題ではないか」と訴えた。

置賜の将来を担う若者がすべきことを聞かれると、二瓶さんは「置賜には高校生が知らない魅力がたくさんある。異世代の人たちと関わることで置賜の魅力を知り、誇りに思うことが大切。進学のために一度は置賜を離れてもアットホームな雰囲気や育った経験は記憶から消えることはない」、影山さんは「若者は一度、置賜を出て

会減の抑制をKPIに設定しており、少しでも人口減少の抑制に繋がるよう取り組んでいる」と話した。

逆逆若者のために大人がすべきことについて、鈴木さんは米沢商工会議所青年部の活動を交え「置賜に住む大

人が地域を盛り上げ、楽しく生きていく姿を若者たちに肌で感じてもらえれば、地域に戻ってきて楽しく暮らすと感ずるのではないかと語った。ナセBAでのパネル展は19日まで。